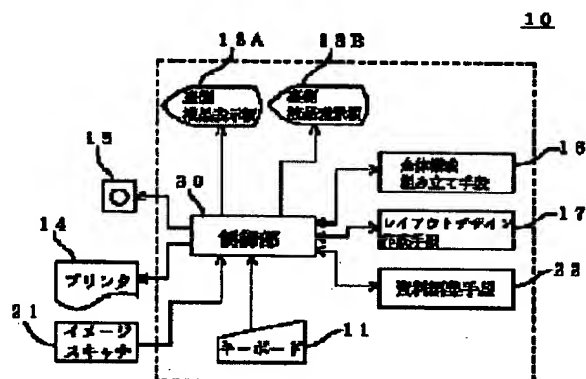


Report a data error here

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a commemorative book preparation method and the device for shortening the preparation time of a commemorative book. **SOLUTION:** After deciding the concept of the commemorative book, the constituting element of the commemorative book is selected from a constituting element group stored in the ROM of a commemorative book preparation device 10 along the concept contents. Thereafter, matched with the selected constituting element and the budget of an ordering person, the entire constitution of the commemorative book is assembled through an entire constitution assembly means 16. Then, based on the entire constitution, through a layout design preparation means 17, the layout design of the commemorative book is selected from a layout group stored beforehand in the ROM. As a result, the preparation time of the constituting element of the commemorative book, the assembly time of the entire constitution and the preparation time of the layout design, etc., are shortened and the overall preparation time of the commemorative book is reduced.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-296689

(43) 公開日 平成11年(1999)10月29日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 0 6 T 11/60

C 0 6 F 15/62

3 2 5 K

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願平10-116203

(22) 出願日 平成10年(1998)4月9日

(71) 出願人 598053703

小野 徹

大分県大分市大字上宗方1585番地の11

(72) 発明者 小野 徹

大分県大分市大字上宗方1585番地の11

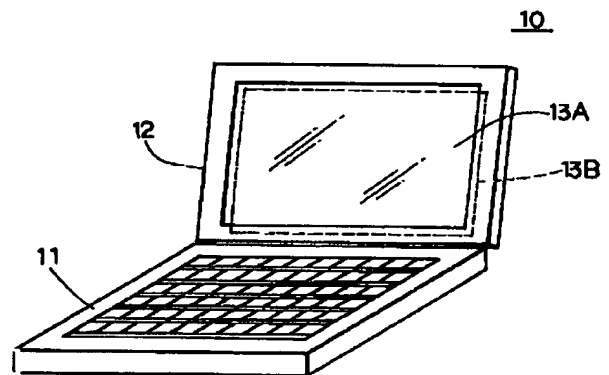
(74) 代理人 弁理士 安倍 逸郎

(54) 【発明の名称】 記念誌作成方法およびその装置

(57) 【要約】

【課題】 記念誌の作成時間を短縮する記念誌作成方法およびその装置を提供する。

【解決手段】 記念誌のコンセプトを決定後、その内容に沿って記念誌の構成要素を、記念誌作成装置10のROM30bに記憶した構成要素群より選択する。その後、選択された構成要素と発注者の予算に合わせて、全体構成組み立て手段16を介して記念誌の全体構成を組み立てる。次に、全体構成に基づき、レイアウトデザイン作成手段17を介して、記念誌のレイアウトデザインを、予めROM30bに記憶されたレイアウト群より選択する。この結果、記念誌の構成要素の作成時間、全体構成の組み立て時間、レイアウトデザインの作成時間などが短縮し、よって記念誌の作成時間を全体的に短くすることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素および予算に基づいて、記念誌の全体構成を組み立てる工程と、

この全体構成に基づいたレイアウトデザインを選択する工程とを備えた記念誌作成方法。

【請求項2】 上記レイアウトデザインに基づいて収集された資料の編集工程を有する請求項1に記載の記念誌作成方法。

【請求項3】 予算を入力する予算入力手段と、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素を入力する構成要素入力手段と、

この予算および構成要素に基づき、記念誌の全体構成を組み立てる全体構成組み立て手段と、

この全体構成に基づいて記念誌のレイアウトデザインを選択するレイアウトデザイン作成手段とを備えた記念誌作成装置。

【請求項4】 上記レイアウトデザインに基づいて収集された資料を入力する資料入力手段、および、この資料入力手段からの資料を編集する資料編集手段を有する請求項3に記載の記念誌作成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は記念誌作成方法およびその装置、詳しくは記念誌の作成時間の短縮と、効率的な資料収集を可能とする記念誌作成方法およびその装置に関する。

【0002】

【従来の技術】例えば、学校や会社など長年の運営が、一つの業績として称賛される団体にあっては、その創立から50年、100年などの節目を記念して、その創立当時からの団体の歴史や、輝かしい業績の類をまとめた記念誌を発行する場合がある。従来、この記念誌の作成にあたっては、対象団体の歴史的資料の収集や調査を先行して行い、その後、分類、編集を行っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来の記念誌作成方法にあっては、編集後に資料の不足を発見したり、せっかく収集した資料が偏ってしまっているせいで、割愛を余儀なくされることが多かった。また、記念誌の作成費用（印刷製本費用）は、全ての資料が出そろい、しかもページ数や写真点数といった記念誌の見積を作成するのに必要な要素が全て決定された後でなければわからないことから、あらかじめ予算が決められている記念誌においては、最初から編集をやり直さなければならない場合が多々あった。

【0004】

【発明の目的】この発明は、記念誌の作成時間を短縮することができる記念誌作成方法およびその装置を提供することを、その目的としている。また、この発明は、記

念誌の作成時間の短縮と、無駄がなく効率的な資料収集作業が可能な記念誌作成方法およびその装置を提供することを、その目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の発明は、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素および予算に基づいて、記念誌の全体構成を組み立てる工程と、この全体構成に基づいたレイアウトデザインを選択する工程とを備えた記念誌作成方法である。ここでいうコンセプトとは、記念誌の役割および目的である。例えば、この記念誌を、後世に残す歴史的な書物として発行するのか、幅広く多くの人に見てもらいたいのか、PR用としたいのかななどを設定することをいう。

【0006】また、ここでいう構成要素とは、例えば学校の記念誌の場合を例にとると、

(1) 口絵

(文字原稿) 校訓、校歌、教育目標、記念行事、記念講演、歴代校長、目次など。

(写真) 校旗、校訓、校歌、校章、校訓碑、記念碑、記念庭園、記念行事、校門、校舎、旧校舎、航空写真、校内点描、周辺風景、郷土紹介、授業風景、部活動、表彰状、絵画、懐かしの写真、イメージ写真など。

【0007】(2) 挨拶文

(掲載記事)

巻頭言：校長、実行委員長、同窓会長など。

ごあいさつ：校長、同窓会長、PTA会長、生徒会長など。

ご祝辞：県知事、市町村長、教育長、議員、後援会長、前校長など。

(3) 歴史

年度に沿って、主な出来事を文章で綴る。所々に関係写真を挿入する。年度に沿って、歴史写真を記載し、その説明を入れる。テーマ(校舎、人物、教育風景、スポーツ、行事など)に分けて、年度に沿って文章や写真で綴る。

【0008】(4) 沿革

年表形式

校名、学科の変遷を図表にする。

歴代校長の写真を挿入する。

歴史的写真を挿入する。

(5) 寄稿文

(テーマ) 祝辞、回想録、随筆、現況報告など。

(対象) 前・元校長、現・旧職員、現・旧PTA会長、同窓会役員、部活動で活躍した卒業生、学業で優秀だった卒業生、現在活躍している卒業生、年代別の卒業生有志、在校生有志など。

【0009】(6) 座談会

(テーマ) 在学中の思い出、母校の未来像、教育問題など。

(対象) 前・元校長、現・旧職員、現・旧PTA会長、

同窓会役員、部活動で活躍した卒業生、学業で優秀だった卒業生、現在活躍している卒業生、在校生代表など。

(7) 現在点描

・通学→授業(教室)→昼休み→授業(運動場)→部活動など。

・1学期→夏合宿→2学期→体育祭→文化祭→3学期など、1年の行事に沿って写真を紹介する。

・春夏秋冬に沿って写真を紹介する。

・入学式→1年→2年→修学旅行→3年→卒業式など、3年間の流れに沿って写真を紹介する。

・各学科別の紹介。

・部活動やクラブ活動の紹介など。

(8) 将来の展望

(掲載記事) 整備構想、各学科紹介(新設学科の紹介)、将来の夢について(寄稿文)など。

【0010】(9) 記念事業

(掲載記事) 実行委員会一覧、記念事業内容、式典の式次第、経費など。

(10) 同窓会

(掲載記事) 歴史、活動・業績、会則、役員名簿など(なお、歴史編、資料編に挿入する編集方法もある)。

(11) PTA

(掲載記事) 歴史、活動・業績、会則、役員名簿など(なお、歴史編、資料編に挿入する編集方法もある)。

(12) 資料

歴代校長一覧、同窓会役員一覧、旧、現職員一覧、卒業生数一覧、PTA役員、後援会役員一覧、実行委員一覧、部活動、校舎配置図、設備一覧、校歌、応援歌、教育課程、生徒会会則、同窓会会則、進路・就職状況、学籍簿、成績簿(写真)、教科書(写真)、定時制など。

(13) 企画物

・在校生全員から、「将来の夢」などのテーマで一言コメントを集め、すべて掲載する。

・著名人となった卒業生のインタビュー(対話形式)。

・記念碑、記念モニュメントなどの製作記事。

【0011】ここでいう全体構成とは、例えば学校の記念誌の場合を例にとると、

(1) 仕様

サイズ: A4版、綴式: 左綴り、総頁数: 80頁、製本: 無線綴、部数: 1,500部、表紙: アートポスト200kg、見返し: コート135kg、表紙、口絵および本文: 各コート135kg。

(2) 構成

表紙、見返し(4頁、写真2枚)、扉(1頁、写真1枚)、口絵(全6頁、全写真15枚/校訓、校旗、校歌、校章、目次)、挨拶文(全6頁、全6枚/校長、PTA会長、同窓会長、県知事、教育委員会、県議員)、記念事業(3頁、写真9枚)、歴代校長・PTA会長(1頁)、歴史・沿革(全48頁、写真134枚/概要、記録写真、年表)、寄稿文(全8頁、写真16枚

／前校長、元校長、旧職員、旧PTA会長、同窓会役員、卒業生)、現在点描(6枚、写真31枚)、編集後記(1頁)、記念誌の総頁数80頁、総写真数214枚。なお、実際に記念誌を作成する場合、個々の構成要素の頁数や写真点数は、発注者のコンセプトを活かせるように、数パターンを提案した方が好ましい。また、ここでいうレイアウトデザインとは、記念誌の全体の構成をまとめて視覚的に見やすくし、その後の編集作業を効率よく行うための作業のことである。

【0012】請求項2に記載の発明は、上記レイアウトデザインに基づいて収集された資料の編集工程を有する請求項1に記載の記念誌作成方法である。ここでいう資料とは、記念誌を作成するのに必要な各種の文字原稿や写真をいう。編集工程は、これらの収集資料を設定されたレイアウトデザインに組み込めるように整理する作業である。

【0013】請求項3に記載した発明は、予算を入力する予算入力手段と、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素を入力する構成要素入力手段と、この予算および構成要素に基づき、記念誌の全体構成を組み立てる全体構成組み立て手段と、この全体構成に基づいて記念誌のレイアウトデザインを選択するレイアウトデザイン作成手段とを備えた記念誌作成装置である。これらの手段は、記念誌作成装置の制御系に組み込まれる。予算入力手段および構成要素入力手段としては、例えばキーボード、音声入力装置、イメージスキャナなどが採用することができる。

【0014】請求項4に記載の発明は、上記レイアウトデザインに基づいて収集された資料を入力する資料入力手段、および、この資料入力手段からの資料を編集する資料編集手段を有する請求項3に記載の記念誌作成装置である。資料入力手段としては、例えばキーボード、音声入力装置、イメージスキャナなどが採用することができる。

【0015】

【作用】この発明によれば、発注者単独、または、この発注者と作成者との協議などによって記念誌のコンセプトを決定する。その後、決定されたコンセプトに沿って、記念誌の構成要素を、あらかじめリストアップされた構成要素群の中から選択する。もちろん、新規な構成要素を加えてもよい。次いで、この選択された構成要素および発注者の予算に基づき、記念誌の全体構成を組み立てる。なお、個々の構成要素の頁数および写真点数は、予算の範囲内において、発注者のコンセプトを活かせるものを数パターン提案する方が好ましい。そして、この全体構成に基づき、記念誌のレイアウトデザインを、あらかじめリストアップされたレイアウト群の中から選択する。このレイアウトデザインは、例えばDTP(Desk Top Publishing)などにより作成しておけば便利である。レイアウトデザインの選

択作業は、通常、発注者が行う。また、構成要素別に数パターン用意しておく、選択の幅が広がって好ましい。

【0016】このように、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素および予算に基づいて記念誌の全体構成を組み立てた後、この全体構成からレイアウトデザインを選択するようにしたので、記念誌の構成要素の作成時間、全体構成の組み立て時間、レイアウトデザインの作成時間などを短縮することができる。この結果、記念誌の作成時間を全体的に短くすることができる。その後、構成要素の資料収集、および、この収集された資料の編集作業を行う。続いて、通常の印刷物の制作工程である組版→文字構成→製版→最終チェック→印刷・製本の各工程へ順次移行する。

【0017】特に、請求項2，請求項4の発明によれば、選択されたレイアウトデザインに基づいて構成要素の資料収集を行った後、この収集された資料の編集作業を行う。このように、記念誌の作成作業中、最も手間のかかる資料収集作業を、あらかじめ決定されたレイアウトデザインに沿って行えるようにしたので、資料収集作業が無駄なく効率的となり、しかもこの結果、従来の資料収集や調査を先行させたものに比べて、記念誌の作成時間を短縮することができる。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施例を図面を参照して説明する。ここでは、某高等学校の50周年を祝う記念誌の作成方法およびその装置を例とする。図1はこの発明の一実施例に係る記念誌作成装置として用いられるノート型パソコンの斜視図である。図2はこのノート型パソコンの制御系のブロック図である。図3は制御部内のブロック図である。図1において、10は記念誌作成装置としてのノート型パソコンであり、このノート型パソコン10は、記念誌の予算を入力する予算入力手段、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素を入力する構成要素入力手段、および、レイアウトデザインに基づいて収集された資料を入力する資料入力手段を兼務したキーボード11を有しており、このキーボード11に回動自在に軸着された蓋12の表裏面に、それぞれ液晶表示板13A、13Bを組み付けたものである。

【0019】このノート型パソコン10の制御系は、図2に示すように制御部30を中心に構成されている。制御部30には、キー入力用の上記キーボード11、出力画面としての上記表裏側の液晶表示板13A、13B、外設のプリンタ14、フロッピー15およびイメージスキャナ21（資料入力手段）などが接続されている。この他、この制御部30には、キーボード11により入力された予算および構成要素に基づき、記念誌の全体構成を組み立てる全体構成組み立て手段16、全体構成に基づいて記念誌のレイアウトデザインを選択するレイアウ

トデザイン作成手段17、および、資料入力手段からの資料を編集する資料編集手段22が接続されている。

【0020】なお、制御部30は一般的な構成を有している。すなわち、中央処理装置のCPU30a、メモリのROM30bおよびRAM30c、そして出力ポートのI/Oポート30dが各々バス接続されている（図3参照）。また、ROM30b内には、あらかじめ記念誌の見積計算式、構成要素用データ、全体構成用データおよびレイアウトデザイン用データなどが記憶されている。これらの詳細は後述する。また、これらのデータは外部記憶装置に格納させてあっても良いことはもちろんである。キーボード11の入力操作により、記念誌の全体構成組み立て時には全体構成組み立て手段16を動作させ、また記念誌のレイアウトデザイン作成時にはレイアウトデザイン作成手段17を動作させて、それぞれの作業を開始する。

【0021】このように、本装置をノート型パソコン10で構成することで、例えば、印刷会社の記念誌作成の担当者が、その発注者側にノート型パソコン10を持参し、対向席に担当者および発注者が座ったテーブル席上で蓋12を起立させて、このパソコン10を使用することができる。すなわち、担当者は表側液晶表示板13Aの画面を見ながらキーボード11で入力操作し、一方、蓋12の裏面に組み付けられた裏側液晶表示板13Bを通して、担当者と対面席の発注者にその表示内容を報告する。蓋12の表裏面を液晶表示画面としたことで、ノート型パソコン10の携帯性を損なわせることなく、かつ比較的低コストで、双方の画面上で内容を確認しながら、対面席に座った発注者と例えば全体構成やレイアウトデザインの選択などの作業を打ち合わせることができる。

【0022】また、このような対面打ち合わせ用の他のパソコンとして、例えば図4～図9に示すような異なるノート型パソコン10A～10Dが挙げられる。これらのノート型パソコン10、10A～10Dは記念誌作成用に限らず、どのような対面席での打ち合わせにも好都合なものである。図4は表示板が横分割式のノート型パソコンの斜視図である。図5は表示板が全体着脱式のノート型パソコンの斜視図である。図6は表示板が縦折り返し式のノート型パソコンの斜視図である。図7は表示板が旋回式のノート型パソコンの斜視図である。まず、図4に示すノート型パソコン10Aは、蓋12が横方向に固定側部分蓋12Aと、キーボード11に着脱可能な分離側部分蓋12Bとに2分割することができる構造になっている。したがって、打ち合わせ時には、分離側部分蓋12Bをキーボード11から分離してその表示画面を発注者側へ向け、担当者が固定側部分液晶表示板13Cの画面を見ながらキーボード入力する。一方、発注者は分離側部分液晶表示板13Dの画面を見てその表示内容を知る。このように構成したことで、打ち合わせ時

に、担当者と発注者との間でいちいちノート型パソコン10Aを回転させて画面の向きを代える必要がない。

【0023】次に、図5に示すノート型パソコン10Bは、蓋12Cの全体がキーボード11から着脱可能に分離することができる構造になっている。したがって、打ち合わせ時には、蓋12Cをキーボード11から分離し、これを比較的傾斜を低くして双方から画面を見やすくした台座21上に載置することで、その表示画面を担当者および発注者側へ向けながら打ち合わせを行う。図5において、22は蓋12Cの係止フックである。このように構成したことで、打ち合わせ時、担当者と発注者との間で、いちいち比較的重いノート型パソコン10B全体を回転させて、その画面の向きを代える手間が省くことができる。次にまた、図6に示すノート型パソコン10Cは、ヒンジを介して蓋12Dが縦に裏側へ折り返すことができる構造になっている。したがって、打ち合わせ時には蓋12Dの上側部分蓋12Eを裏面側へ折り返す。これにより、担当者は蓋12Dの下側部分蓋12Fに組み付けられた下側部分液晶表示板13Eを見ながらキーボードを入力操作する。一方、発注者は折り返された上側部分蓋12Eの上側部分液晶表示板(図外)の画面を見てその表示内容を知る。このように構成したことで、打ち合わせ時、簡単な操作でもって担当者と発注者とは同時にノート型パソコン10Cの画面を見ることができる。

【0024】続いて、図7に示すノート型パソコン10Dは、蓋12Gを水平旋回可能にしたものである。打ち合わせ時には、回転軸12aを中心に蓋12Gを水平旋回させながら、その表示画面を担当者側または発注者側へ向けて打ち合わせる。このように構成したことで、打ち合わせ時、担当者と発注者との間で、いちいち比較的重いノート型パソコン10D全体を回転させなくても、その画面の向きを代えることができる。また、この他、図8に示すように、通常のノート型パソコン10Eを回転テーブル20上に載せて、このパソコン10Eを水平旋回させながら打ち合わせしてもよい。さらに図9に示すように、ケーブル接続された(またはIRでデータ通信可能な)2台の通常のノート型パソコン10Eを背中合わせに突き合わせてもよい。図8、図9において、13Fは液晶表示板、12Hは蓋である。

【0025】次に、上記図1に示すノート型パソコン10を用いて、この発明の記念誌作成方法を説明する。図10はこの発明の一実施例に係る記念誌作成方法の概略フローチャートである。以下、このフローチャートに基づいて記念誌作成方法を説明する。図10において、ステップS100では、発注者に記念誌を作成するにあたっての概略的な予算を決めさせる。そして、その額をキーボード11により制御部30のRAM30cに記憶させる。ステップS101は、記念誌のコンセプトを決定する工程である。発注者に作成しようとする記念誌の

コンセプト(役割、目的)を決定させる。すなわち、この記念誌を例えば歴史的書物とするのか、書店などで大量に販売するものとするのか、または、パンフレットの的に使うものなのかなどを決めさせる。

【0026】次いで、ステップS102へ進み、記念誌の構成要素の選択を行う。この作業は、発注者単独で選んでもよいし、印刷会社側との共同で選んでもよい。なお、選択時には、作成しようとする記念誌のコンセプトに沿ったものを選択する。これらの構成要素は、あらかじめ表にまとめておくことと便利である。構成要素の選択肢としては、例えば段落番号

【0006】～

【0010】に記載したものなどが挙げられる。具体的には、(1)口絵(文字原稿、写真)、(2)挨拶文(掲載記事:巻頭言、ごあいさつ、ご祝辞)、(3)歴史(文章、写真)、(4)沿革(年表形式で、校名、歴代校長の写真)、(5)寄稿文(テーマ、対象)(6)座談会(テーマ、対象)、(7)現在点描、(8)将来の展望(掲載記事)などがそれである。これらが、あらかじめROM30bに登録されている。

【0027】続いて、ステップS103において、ノート型パソコン10の制御系に組み込まれた全体構成組み立て手段16を用いて、記念誌の予算と発注者が選んだ構成要素を基に、記念誌の全体構成を組み立てる。すなわち、例えば段落番号

【0011】に記載したような(1)仕様、(2)構成および記念誌の総頁数、総写真数である。これらも、あらかじめROM30bに登録されている。各々の構成要素のページ数および写真点数は、発注者のコンセプトを生かせるように考慮し、数パターンを提案する方が好ましい。なお、予算にあったボリューム(ページ数、写真点数、カラーかモノクロかなど)であるかを確認する際には、次の記念誌見積計算式を用いれば見積の作成が簡単になる。通常、この記念誌の見積計算の所要時間は、熟練者でも30分間から1時間くらいかかっていたのが、経験に乏しい者でも数分間で見積書を作成することができる。よって、何パターンもの見積もりを無理なく発注者に提案することができる。

【0028】ここで、まず計算式の凡例を示す。用紙の種類は、サイズ(1)をA4、サイズ(2)をB5とする。頁数はカラーをa1頁、モノクロをa2頁とする。写真はカラーをb1点、モノクロをb2点とする。部数はc部とする。また、平均版下料金をx円とし、その他をz円とする。そして、表紙用の紙の種類は、表紙(1)がレザック175kg相当(1色刷)、表紙(2)がアートポスト200kg相当(4色刷)とする。本文用の用紙の種類は、本文(1)がマットコート110kg、本文(2)がコート135kg、本文(3)が書籍70kg、本文(4)が書籍90kg、本文(5)がコートdkg、本文(6)がマットコートe

kg, 本文(7)が上質紙fkgとする。それに、製本(1)を無線綴り、製本(2)を上製本とし、その単価をy円で示すものとする。各見積計算式を以下に示す。

【0029】版下= $x(a_1+a_2)$

製版・刷版・色校: サイズ(1)= $10,000a_1+4,500b_1+4,000a_2+900b_2$

サイズ(2)= $9,400a_1+4,500b_1+3,000a_2+900b_2$ 印刷: ($c \leq 2,714$) =
 $7,000a_1+1,750a_2$

($c \geq 2,715$) = ($1.4c+3,200$) a_1+
($0.35c+800$) a_2

【0030】製本: 本文用の用紙サイズ(1)の場合

用紙(1)= $1.18(a_1+a_2)c$

用紙(2)= $1.46(a_1+a_2)c$

表紙:

製本(1)

サイズ(1)

表紙(1) ($c \leq 500$) = $94c + 50,000$

($501 \leq c \leq 5,333$) = $55c + 50,000$

表紙(2) ($c \leq 5,333$) = $16.2c + 145,600$

($5,334 \leq c$) = $19.2c + 129,600$

サイズ(2)

表紙(1) ($c \leq 800$) = $60c + 45,000$

($801 \leq c \leq 5,333$) = $36c + 45,000$

表紙(2) ($c \leq 5,333$) = $9.6c + 132,600$

($5,334 \leq c$) = $12.6c + 116,600$

製本(2)

=0

運賃・その他

= $50,000+z$

【0032】次に、ステップS104において、例えば表1に示す工程表を作成する。これを作成することで、発注者および印刷会社側の双方が、記念誌作成の各作業項目、作業内容、それぞれの作業項目に要する期間および各項目の作業分担を確認することができるようにする。この表1において、「共同」とは発注者および印刷

用紙(3)= $0.93(a_1+a_2)c$

用紙(4)= $1.2(a_1+a_2)c$

用紙(5)= $0.0108d(a_1+a_2)c$

用紙(6)= $0.0107e(a_1+a_2)c$

用紙(7)= $0.0101f(a_1+a_2)c$

本文用の用紙サイズ(2)の場合

用紙(1)= $0.85(a_1+a_2)c$

用紙(2)= $1.053(a_1+a_2)c$

用紙(3)= $0.668(a_1+a_2)c$

用紙(4)= $0.86(a_1+a_2)c$

用紙(5)= $0.0078d(a_1+a_2)c$

用紙(6)= $0.0077e(a_1+a_2)c$

用紙(7)= $0.0073f(a_1+a_2)c$

【0031】

会社側の共同作業を意味し、「当社」とは印刷会社側の単独作業を意味する。そして、「可能」とは、発注者側からの要望があれば印刷会社側で請け負うことができることを意味する。

【0033】

【表1】

説明図である。図１２は校歌を記載した口絵のレイアウトデザインを示す説明図である。図１３は校訓および目次を記載した口絵のレイアウトデザインを示す説明図である。図１４は挨拶文のレイアウトデザインを示す説明図である。図１５は分校主事、歴代校長を示すレイアウトデザインを示す説明図である。図１６は沿革・情勢のレイアウトデザインを示す説明図である。図１７は歴史のレイアウトデザインを示す説明図である。図１８は他の歴史のレイアウトデザインを示す説明図である。図１９は寄稿文のレイアウトデザインを示す説明図である。

図20は現在点描のレイアウトデザインを示す説明図である。図16、図17のレイアウトデザイン例のように、あらかじめ構成要素別に数種類のデザインパターンをROM30bに記憶しておけば、発注者はその構成要素別のパターン群の中から好みのレイアウトデザインを選ぶことができ、その選択の範囲を広げることができる。

【0036】次に、担当者および発注者は、選択されたレイアウトデザインに基づいて、各構成要素の資料収集を行う(ステップS106)。そして、同じく担当者および発注者の共同で、キーボード11による寄稿文などを文字入力し、イメージスキャナ21により写真などを画像入力した後、制御部30の資料編集手段22により、このレイアウトデザインに沿った編集作業を行う(ステップS107)。編集終了後、記念誌の制作(例えば、撮影(接写、アルバム)、原稿依頼(現校長、他役員)、版下作成(DTP)、校正(文字・色校正)、修正(DTP)、製版(DTP)、印刷・製本(印刷・上製本)など)に入る(ステップS108)。なお、この実施例では、記念誌に必要な全ての文字データを、テキストデータとして、レイアウトデザインを作成したDTPのフォームに流し込む。また、写真原稿はスキャナで読み込み、指定された枠内にはめ込む。このように、あらかじめレイアウトデザインによりその指定枠が決められているので、比較的短時間で組版を行うことができる。

【0037】このように、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素および予算に基づいて記念誌の全体構成を組み立てた後、この全体構成からレイアウトデザインを選択するようにしたので、記念誌の構成要素の作成時間、全体構成の組み立て時間、レイアウトデザインの作成時間などを短縮することができる。この結果、記念誌の作成時間を全体的に短くすることができ、予算通りの記念誌を作成することができる。また、選択されたレイアウトデザインに基づいて構成要素の資料収集を行った後、この収集された資料の編集作業を行うようにしたので、記念誌の作成作業中、最も手間のかかる資料収集作業を、あらかじめ決定されたレイアウトデザインに沿って行え、資料収集作業が無駄なく効率的となり、しかもこの結果、従来の資料収集や調査を先行させたものに比べて、記念誌の作成時間を短縮することができる。

【0038】

【発明の効果】この発明によれば、コンセプトに沿って選択された記念誌の構成要素、および、予算に基づいて記念誌の全体構成を組み立て、その後、この全体構成に基づいてレイアウトデザインを選択するようにしたので、記念誌の構成要素の作成時間、全体構成の組み立て時間、レイアウトデザインの作成時間を短縮することができ、この結果、記念誌全体の作成時間を短縮することができる。

【0039】特に、請求項2および請求項4に記載の発明によれば、レイアウトデザインに基づいて構成要素の資料収集を行い、その後、レイアウトデザインに沿って、収集された資料を編集して記念誌を作成するようにしたので、余分な資料の収集時間を省くことができ、これにより記念誌の作成時間の短縮と、効率的な資料収集とを行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例に係る記念誌作成装置として用いられるノート型パソコンの斜視図である。

【図2】この発明の一実施例に係るこのノート型パソコンの制御系のブロック図である。

【図3】この発明の一実施例に係る制御部内のブロック図である。

【図4】この発明の一実施例に係る表示板が横分割式のノート型パソコンの斜視図である。

【図5】この発明の一実施例に係る表示板が全体着脱式のノート型パソコンの斜視図である。

【図6】この発明の一実施例に係る表示板が縦折り返し式のノート型パソコンの斜視図である。

【図7】この発明の一実施例に係る表示板が旋回式のノート型パソコンの斜視図である。

【図8】この発明の一実施例に係る回転テーブル上に設置されたノート型パソコンの斜視図である。

【図9】この発明の一実施例に係る背中合わせに突き合わされた2台のノート型パソコンの斜視図である。

【図10】この発明の一実施例に係る記念誌作成方法の概略フローチャートである。

【図11】この発明の一実施例に係る口絵のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図12】この発明の一実施例に係る校歌を記載した口絵のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図13】この発明の一実施例に係る校訓および目次を記載した口絵のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図14】この発明の一実施例に係る挨拶文のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図15】この発明の一実施例に係る分校主事、歴代校長を示すレイアウトデザインを示す説明図である。

【図16】この発明の一実施例に係る沿革・情勢のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図17】この発明の一実施例に係る歴史のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図18】この発明の一実施例に係る他の歴史のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図19】この発明の一実施例に係る寄稿文のレイアウトデザインを示す説明図である。

【図20】この発明の一実施例に係る現在点描のレイアウトデザインを示す説明図である。

【符号の説明】

10, 10A~10E ノート型パソコン（記念誌作成装置）、

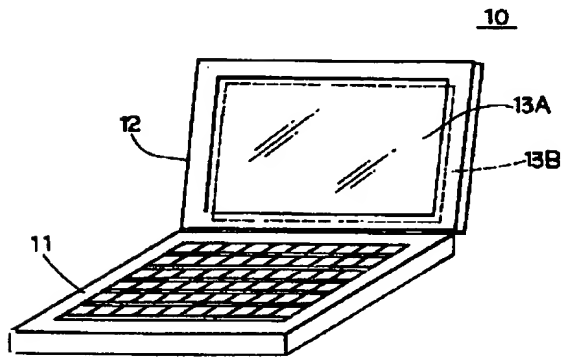
11 キーボード（予算入力手段、構成要素入力手

段）、

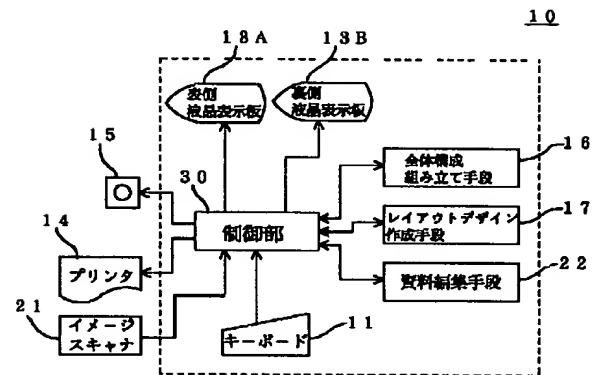
16 全体構成組み立て手段、

17 レイアウトデザイン作成手段。

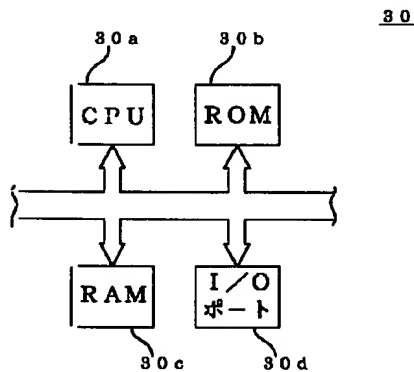
【図1】



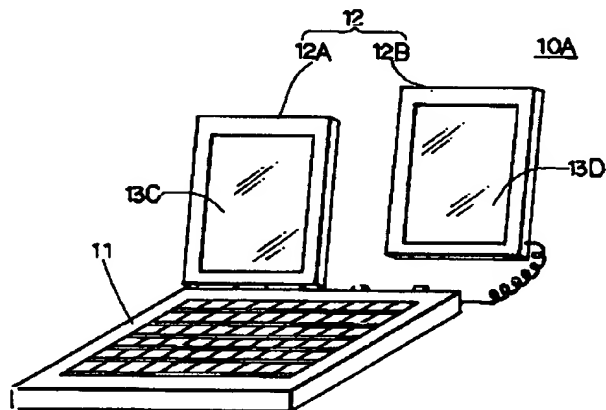
【図2】



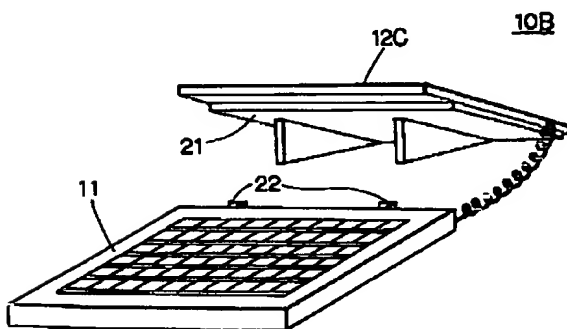
【図3】



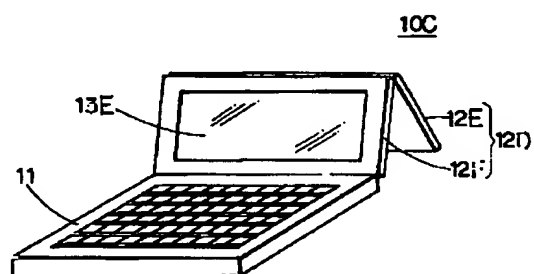
【図4】



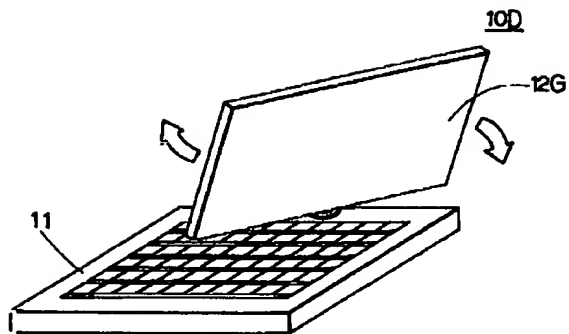
【図5】



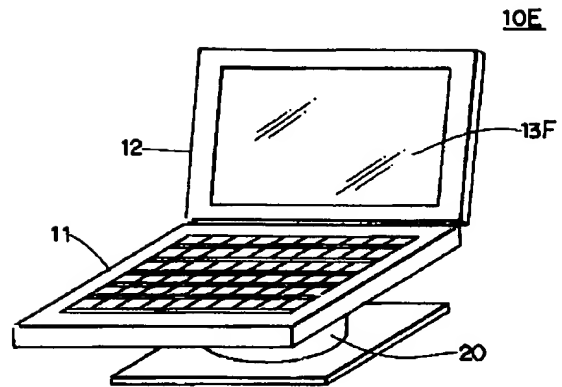
【図6】



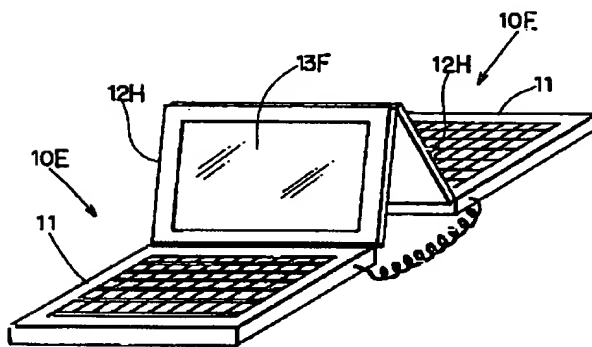
【図7】



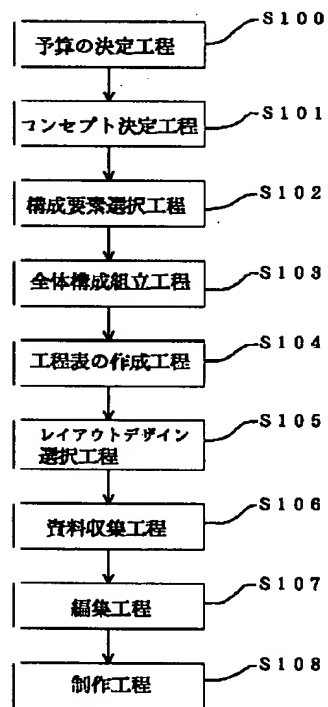
【図8】



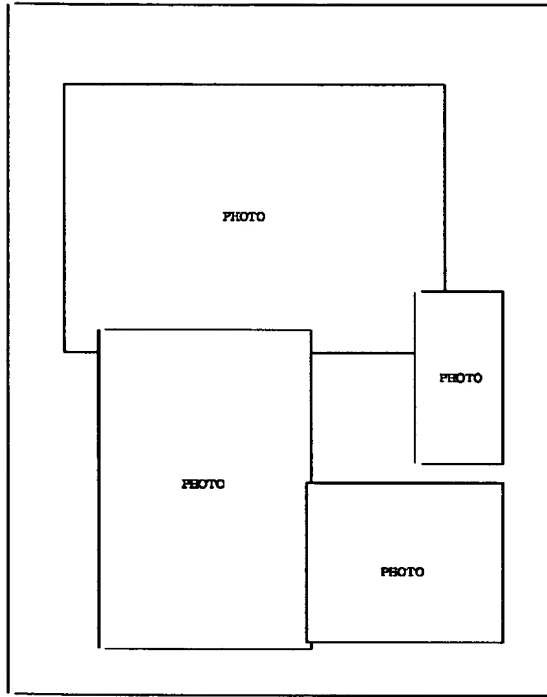
【図9】



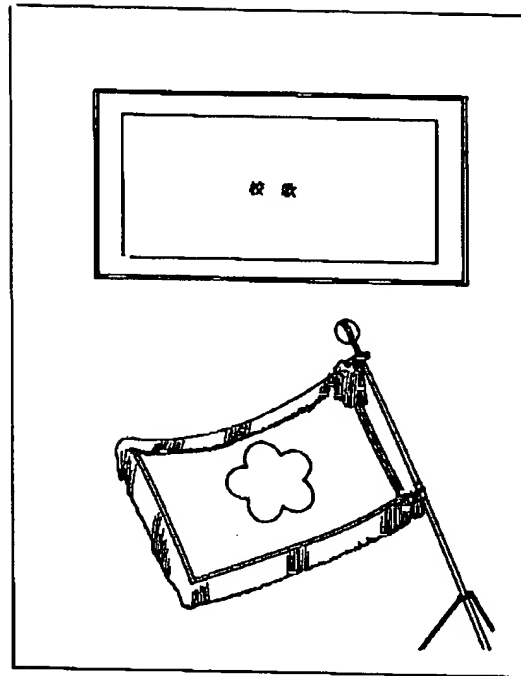
【図10】



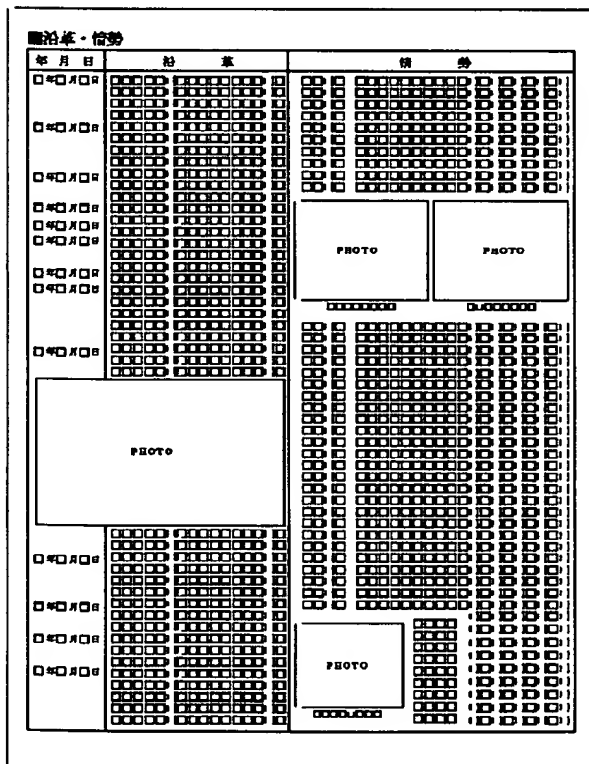
【図11】



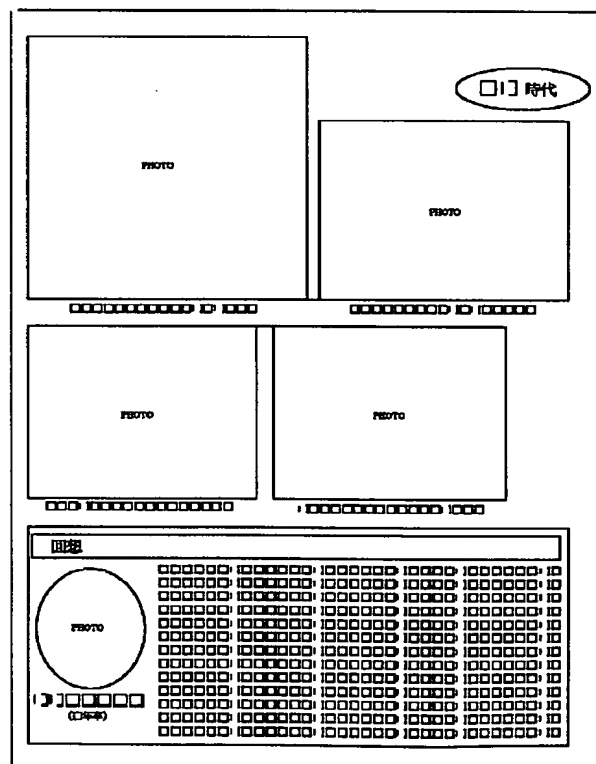
【図12】



【図16】



【図18】



【図13】

PHOTO

PHOTO

PHOTO

剛 毅

敬 愛

創 造

校長・校長・校長

御挨拶

校長・
同級会長
PTA会長
町長
県新選連合会長

歴代校長

沿革・情勢

歴 史

寄稿文

現在点検

創立50周年記念特設試合

編集後記

【図14】

PHOTO

剛 毅

敬 愛

創 造

校長・校長・校長

御挨拶

校長・
同級会長
PTA会長
町長
県新選連合会長

歴代校長

沿革・情勢

歴 史

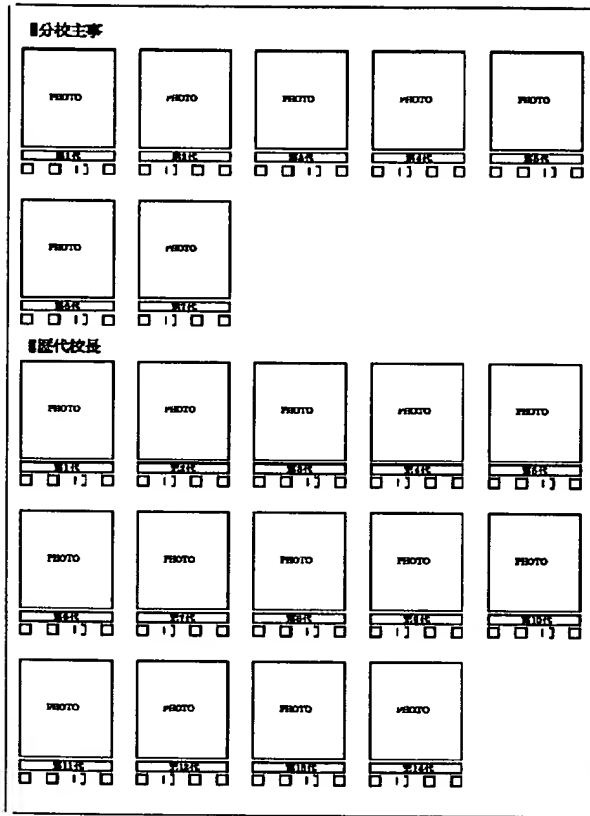
寄稿文

現在点検

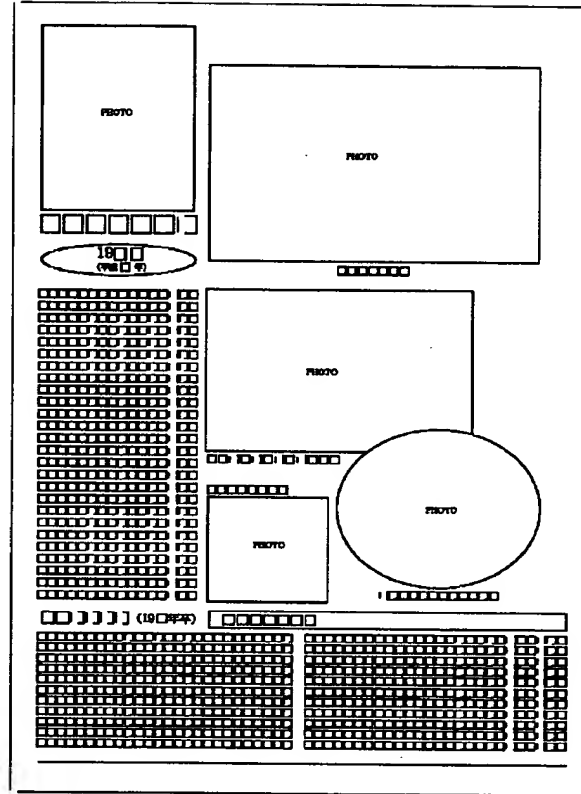
創立50周年記念特設試合

編集後記

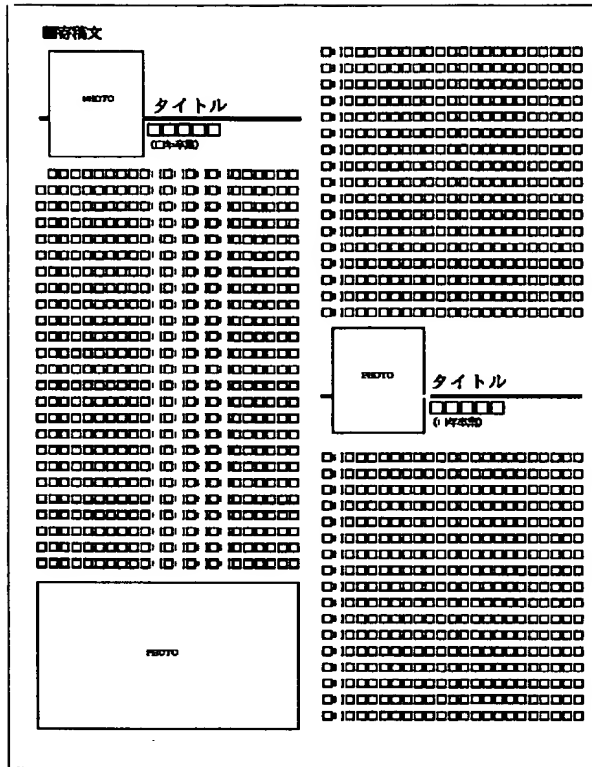
【図15】



【図17】



【図19】



【図20】

